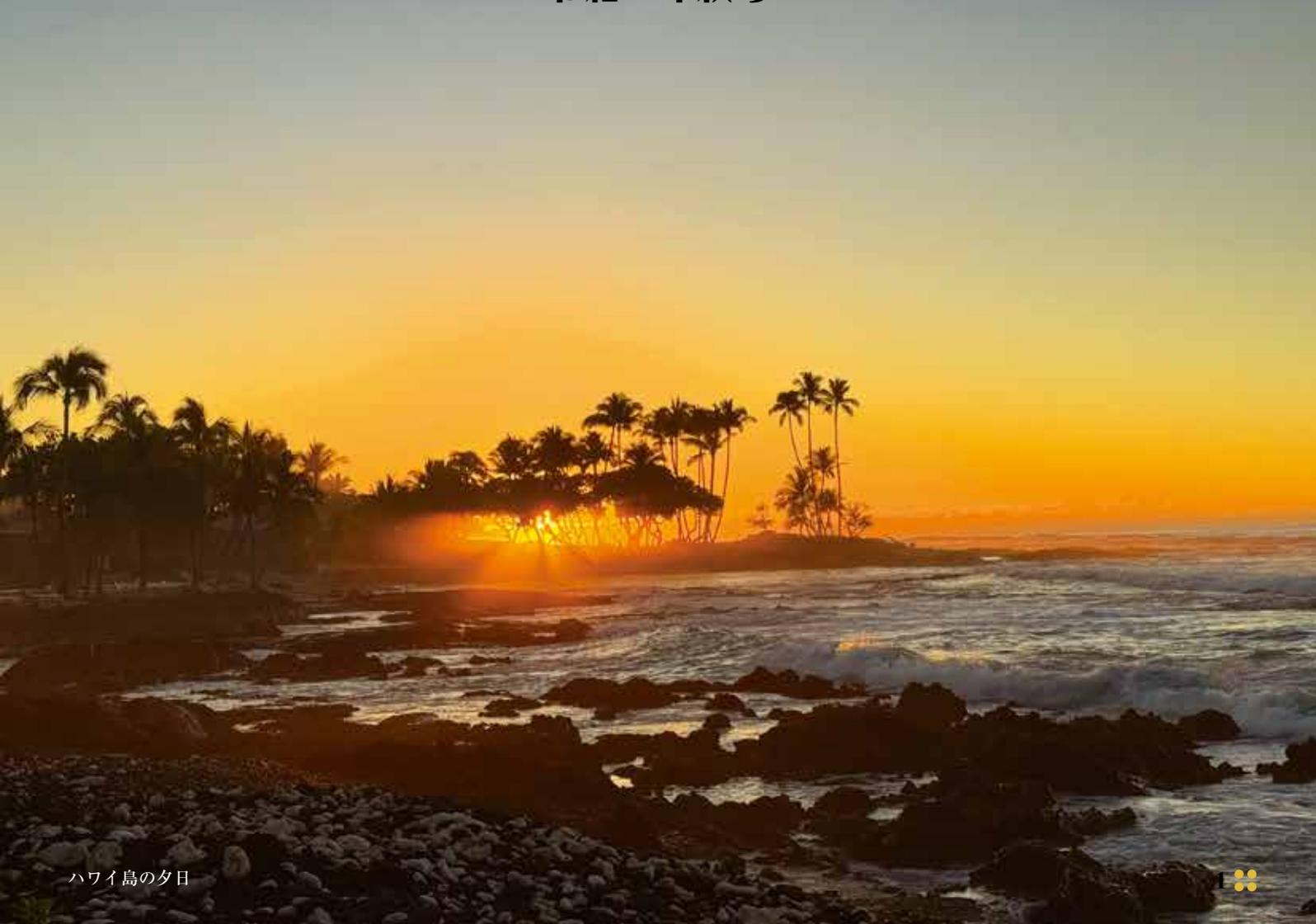


島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

道



～令和6年秋号～



『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。



暑い夏から一気に気温が変化し、服装の調整に悩む秋から冬の始まりでした。皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この秋は循環器内科としてクラウドファンディングに挑戦しました。多くのご支援いただいたき感謝申し上げます。現在の医療は多くの医療専門職の力が必要となり、また病院に限らず地域や在宅でのチーム医療を展開していくことが要求されます。若手医師はもちろんのこと、医療専門職の研修、資格取得、学会参加などプロフェッショナルとしての成長を応援していく必要があります。一方で、医療業界の経済的支援が得られにくい時代となり、また業界の意向に縛られない幅広い教育活動も必要です。島根県の医療のさらなる発展のために、今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願ひします。



超音波医学会地方会(左)、内科学会地方会(中)、循環器学会地方会(右)で専攻医の先生方が発表しました

Field of Dreams

「フィールド・オブ・ドリームス」

ケビン・コスナー主演の映画「フィールド・オブ・ドリームス」(1989年)があります。主人公がアイオワ州のトゥモロコシ畑の真ん中に野球場を作ると、すでに亡くなった野球選手たちがゴーストとして天国から降りてきて、昔の姿に戻ってプレーをするという設定です。やがて主人公の亡くなった父親がその野球場に現れて、夕暮れの球場で親子のキャッチボールが始まります。ゴーストの父親が「Is this heaven?」と聞き、主人公の息子(ケビン・コスナー)が「It's Iowa」と答えます(感動)。それがどうしたと思われるかもしれませんが。1990年11月、テキサス州ダラスで開催された American Heart Association (AHA) の学術集会に出席しました。前年に研修した国立循環器病センターで

の演題が通り、初の渡米でした。初めてのAHAの発表が口演であったことから、準備の仕方もわからず、当時ケンタッキー大学に留学されていた国循環時代の指導医・山岸正和先生(後に金沢大学教授)のホテル缶詰の発表練習で何とか恰好をつけることができました。その年の大会長がアイオワ大学の先生で、開会式の挨拶の冒頭「Is this heaven? It's Iowa.」と聴衆を沸かせたのです。もちろん、その場で何のことはわかりませんでした。帰国後にレンタルビデオで観た映画「フィールド・オブ・ドリームス」は初渡米以後、心に宿ったアメリカ留学の思いを強くさせるものでした。何よりもゴーストの父親が「Is this heaven?」と聞き、主人公の息子が「It's Iowa」と答える夕暮れの野球場のシーンはこの映画を見返すたびに、様々な思い出が交錯して涙腺を崩壊させます。



大谷翔平選手 (私の弟が撮影)

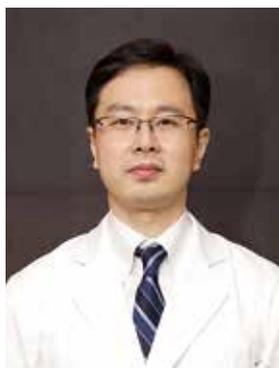
2024年春以降、特に10月から11月はドジャースの大谷翔平選手の活躍に元気が出ました。大谷翔平選手のプレーを見ていると、とにかく心地よいのです。ある医師が大谷翔平選手の動画はうつ病に効果があると言われていました。調べてみると、「大谷選手の活躍を見ることで、応援している人の脳内でドーパミンが放出され、幸福感が高まっていると考えられる。また、大谷選手の試合が朝というの大きい。朝の満たされる活動は一日全体の充足感にも繋がる」とありました。また、脳にはミラーニューロンと呼ばれる細胞があるのですが、ミラーニューロンは他人の行動を自分の脳

内で仮想的に再現し、あたかも自分がやっているかのように心身を感じる作用をもたらすそうです。大谷選手を応援することが「ミラーニューロン効果」で、これまでの常識を覆す稀代のスーパースターと「同化」できるのかもしれませんが。推し活にも通じるものがあると思います。

最後になりましたが、同門の村上林兒先生が2024年9月28日ご逝去されました。心カテ室、病棟、スキー、野球、ゴルフと思い出は尽きません。ご指導に感謝し、ご冥福をお祈りします。

令和6年度の腎臓内科の体制につきまして

腎臓内科教授
神田 武志



令和6年度の腎臓内科の取り組みにつきましてご報告致します。

診療面では慢性腎臓病、高血圧診療を中心とした高齢化対策を推進しています。出雲市では人口透析開始に至った原疾患をたどると、高血圧が最も多く加齢とともに高血圧

による原疾患患者数が増加しています。行政、かかりつけの先生方、島根大学病院、県立中央病院の腎臓専門医の地域連携体制をより一層推進するため5月に「出雲CKD病診連携の会」を開催致しました。紹介基準をアップデートし、CKD紹介表を新たに作成しました。当院では腎機能の低下速度に着目し「腎臓寿命の見える化」することによりまして患者様のヘルスリテラシー向上に努めています。松江市、出雲市、雲南市、大田市、江津市、益田市、隠岐の島町で腎臓専門外来を開設し慢性腎臓病に対する早期介入、集学的治療をすすめて参ります。

教育、診療面については引き続き県内の腎臓専門医、隣県の山口県の腎臓専門医の先生方と協力しながらWEBで症例検討会を隔週で行っています。症例を共有し皆でディスカッションすることにより切磋琢磨し、両県の腎臓診療レベルの向上を図っています。また当院では月に1度、病理の先生をお招きして腎病理カンファレンスを開催しています。

研究面では慶應義塾大学医学部百寿総合研究センターとの共同研究をスタートさせました。島根県は人口比で最も百寿者（100歳以上の方）がおられる地域です。何故、島根県で百寿者が多いのか、食事、ライフスタイル、血液のみならず便、尿の網羅的な解析を通して首都圏の百寿者と比較することでその機序を解明して参ります。基礎研究に関してはNAD代謝酵素や肥満に関わる酵素を遺伝子改変したマウスを用いて、慢性腎臓病の線維化機序解明の研究をすすめています。

今後とも腎臓内科にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業績

論文・著書・総説 (2024年春号以降掲載、掲載決定分)

1. Kagiya N, Kaneko T, Amano M, Sato Y, Ohno Y, Obokarta M, Sato K, Okada T, Hoshino N, Izumi Y, Ota M, Mochizuki Y, Sengoku K, Sasaki S, Nagura F, Nomura N, Nishikawa R, Kato N, Sakamoto T, Eguchi N, Senoo M, Kitano M, Takaya Y, Saijo Y, Tanaka H, Nochioka K, Omori N, Tabata M, Minamino T, Hirose N, Morita K, Mchino-Ohtsuka T, Delgado V, Abe Y. Clinical outcomes of mitral valve surgery in atrial functional mitral regurgitation in the REVEAL-AFMR registry. *JAMA Network Open* 2024
2. Endo A, Oda T, Shirota K, Akashi S, Yamashita S, Uchida K, Ohta T, Nakazawa Y, Tanabe K. Comparison of the efficacy of primary percutaneous coronary intervention in super-old and old aged patients in an advanced aging society. *J Cardiol* 2024, Nov 15
3. Nakata T, Tachi M, Yasuda K, Tanabe J, Kawanami Y, Yamazaki K. Correction of hemitruncus in an adult patient alleviated pulmonary arteriovenous fistula in the affected lung. *World Journal for Pediatric and Congenital Heart Surgery*. 2024, Nov 18
4. Kishimoto K, Tobita H, Kataoka M, Yazaki T, Oka A, Ishimura N, Tanabe K, Ishihara S. Changes in hepatic density due to oral amiodarone-induced liver injury shown by computed tomography. *Intern Med* 2024, Nov 21
5. Suetomi T, Fukue N, Ishida M, Taniyama M, Mukai-Yatagi N, Sakamoto T, Tamada T, Matsuura T, Tanabe K, Nakano Y. Task shifting in cardiac catheterization to sustain physicians and acute coronary syndrome response center: findings from the 2024 JCS Chyugoku-Shikoku regional survey. *Circ Rep* 2024 (in press)
6. 山崎誠太、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、清水弘治、山崎和裕、田邊一明. 高齢期に指摘され、外科的大動脈弁置換術を施行した大動脈弁下狭窄の一例. *心臓*2024 (in press)
7. Qi N, Franczyk MP, Yamaguchi S, Kojima D, Hayashi K, Satoh A, Ogiso N, Kanda T, Sasaki Y, Finck BN, DeBosch BJ, Yoshino J. Adipocyte-specific inactivation of NAMPT, a key NAD (+)biosynthetic enzyme, causes a metabolically-unhealthy lean phenotype in female mice during aging. *Am J Physiol Endocrinol Metab*. 2024. Epub 20240529
8. Kobayashi D, Yoshino J, Hanada M, Ohba M, Oka T, Itoga K, Niino D, Kanda T. A case of de novo glomerulonephritis following COVID-19 in a patient with preexistent IgA vasculitis. *CEN Case Rep*. 2024. Epub 20241013
9. Kaneko K, Mitsuno R, Kojima D, Azegami T, Kosugi S, Nakamura T, Hashiguchi A, Yamada Y, Jinzaki M, Yamaguchi S, Itoh H, Yoshino J, Hayashi K. Renal sinus fat is associated with intrarenal hemodynamic abnormalities independent of visceral fat in patients with chronic kidney disease. *Obes Res Clin Pract*. 2024;18(2):118-23
10. Petersen MC, Smith GI, Palacios HH, Farabi SS, Yoshino M, Yoshino J, Cho K, Davila-Roman VG, Shankaran M, Barve RA, Yu J, Stern JH, Patterson BW, Hellerstein MK, Shulman GI, Patti GJ, Klein S. Cardiometabolic characteristics of people with metabolically healthy and unhealthy

obesity. *Cell Metab.* 2024;36(4):745-61 e5

11. LaPoint A, Singer JM, Ferguson D, Shew TM, Renkemeyer MK, Palacios HH, Field RL, Yerrathota S, Kumari R, Shankaran M, Smith GI, Yoshino J, He M, Patti GJ, Hellerstein MK, Klein S, Morris EM, Brestoff JR, Finck BN, Lutkewitte A. Adipocyte lipin 1 expression associates with human metabolic health and regulates systemic metabolism in mice. *J Clin Invest.* 2024. Epub 20241015
12. Kelly SC, Higgins CB, Sun J, Adams JA, Zhang Y, Ballentine S, Miao Y, Cui X, Milewska M, Wandzik I, Yoshino J, Swartz BM, Wada SI, DeBosch BJ. Hepatocyte MMP14 mediates liver and inter-organ inflammatory responses to diet-induced liver injury. *PNAS Nexus.* 2024;3(9):pgae357. Epub 20240830
13. Mitsuno R, Nakayama T, Uchiyama K, Yoshimoto N, Kusahana E, Morimoto K, Yoshino J, Yoshida T, Kanda T, Yamaguchi S, Hayashi K. Hemodialysis treatment of vancomycin-induced drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms/drug-induced hypersensitivity syndrome in a patient undergoing peritoneal dialysis. *CEN Case Rep.* 2024. Epub 20240210
14. Maruki T, Nakayama T, Morimoto K, Uchiyama K, Washida N, Mitsuno R, Tonomura S, Hama EY, Kusahana E, Yoshimoto N, Hishikawa A, Hagiwara A, Azegami T, Yoshino J, Monkawa T, Yoshida T, Yamaguchi S, Hayashi K. Combining hemodialysis with peritoneal dialysis improves cognitive function: a three-case report. *CEN Case Rep.* 2024. Epub 20240426
15. Nakayama T, Morimoto K, Uchiyama K, Washida N, Kusahana E, Hama EY, Mitsuno R, Tonomura S, Yoshimoto N, Hishikawa A, Hagiwara A, Azegami T, Yoshino J, Monkawa T, Yoshida T, Yamaguchi S, Hayashi K. Efficacy of sucrose and povidone-iodine mixtures in peritoneal dialysis catheter exit-site care. *BMC Nephrol.* 2024;25(1):151. Epub 20240502
16. Mitsuno R, Nakayama T, Ito W, Maruki T, Nakamichi R, Adachi K, Yoshimoto N, Hishikawa A, Hagiwara A, Yamaguchi S, Monkawa T, Yoshino J, Hashiguchi A, Azegami T, Hayashi K. The proteinuria selectivity index value predicts the remission of IgA nephropathy: a retrospective cohort study. *Ren Fail.* 2024;46(2):2423839. Epub 20241104
17. Adachi K, Yasuda M, Ida M, Kanda T, Morita A, Wakino S, Watanabe S, Itoh H. Impact of dietary habits on renal function in Saku, a rural Japanese town: a cohort study *Clin Exp Nephrol.* 2024 Mar 12
18. 吉野 純: 抗加齢医学におけるNAD+生物学研究の進捗、*Medical Science Digest*, 2024年

学会・研究会発表 (2024年春号以降)

1. 田邊淳也、大内 武、川原 洋、佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、伊藤俊輔、高橋 勉、鈴木律郎、新野大介. AL合併ATTR心アミロイドーシスの1例. 第130回日本内科学会中国地方会. 2024.5.26、米子
 2. 山崎誠太、竹内健悟、田邊淳也、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、公受伸之、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. 迅速な診断、治療を行うことができた急性好酸球性心筋炎の1例. 第124回日本循環器学会中国・四国合同地方会. 2024.6.22-23、広島
 3. 山崎誠太、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. 心膜剥離術前にcombinational elastographyによ
-

-
- り肝機能の評価を行ったIgG4関連心膜炎の一例. 日本超音波医学会第97回学術集会. 2024.5.31-6.2、横浜
4. 田邊淳也、山崎誠太、山口一人、島崎裕正、佐藤寛大、遠藤昭博、吉富裕之、鈴木律郎、田邊一明. 化学療法により改善した心臓病変を合併するびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例. 日本超音波医学会第97回学術集会. 2024.5.31-6.2、横浜
 5. 田邊淳也、今岡 圭、中隅 濃、福原 翔、大矢菜穂子、川原 洋、遠藤昭博、田邊一明. TAVI術前CT検査による骨格筋指標の評価とサルコペニアの関連. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 2024.7.13-14、神戸
 6. 田邊淳也、古田まどか、古志野海人、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 超高齢化社会に挑む心不全多職種、地域連携～地方大学病院での現状と課題. 第72回日本心臓病学会学術集会. 2024.9.27-29、仙台
 7. 阿部寿子、田邊淳也、森田祐介、大矢菜穂子、今岡 圭、三浦佳江. 急性心不全患者への栄養アプローチ：認知症合併症例の検討. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 8. 大矢菜穂子、田邊淳也、森田祐介. 不安障害を持つ心不全患者への意思決定支援：CRT-D治療の成功事例. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 9. 崎山貴也、大矢菜穂子、今岡 圭、阿部寿子、三浦佳江、田邊淳也、森田祐介、佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明. ICDの患者アクティビティを指標とした心不全再入院予防の取り組み. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 10. 田邊淳也、森田祐介、大矢菜穂子、今岡 圭、阿部寿子、崎山貴也、三浦佳江、遠藤昭博、田邊一明. 高齢化地域における心不全患者の再入院原因の検討. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 11. 三浦佳江、佐藤寛大、田邊淳也、田邊一明. 薬局薬剤師と病院薬剤師の係により患者の服薬アドヒアランス向上とセルフモニタリング継続が図れた一症例. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 12. 岡田大司. 三尖弁逆流における心エコー図検査の役割. 第28回日本心不全学会学術集会. 2024.10.4-6、さいたま市
 13. 田中俊太郎、渡邊伸英、田邊淳也、山崎誠太、岡田大司、遠藤昭博、津田洸旬、中島和寿、磯部 威、田邊一明. アミオダロン投与2日目に間質性肺炎を来した1例. 第131回日本内科学会中国地方会. 2024.10.19、広島
 14. 長谷川友哉、古志野海人、古田まどか、香川雄三、岡田大司、渡邊伸英、佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、石飛 茜. 原因不明の失神に対しパッチ型心電図レコーダで持続性心室頻拍を診断し得た1例. 第131回日本内科学会中国地方会. 2024.10.19、広島
 15. 花本航希、田邊淳也、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. BRASH症候群の1例. 第131回日本内科学会中国地方会. 2024.10.19、広島
 16. 長谷川友哉、田邊淳也、清水弘治、渡邊伸英、岡田大司、佐藤寛大、遠藤昭博、吉富裕之、山崎和裕、田邊一明. 経胸壁心エコー図検査で増大傾向を認め外科的に摘出した右房粘液種の一例. 第125回日本循環器学会中国地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷
 17. 花本航希、山崎誠太、長谷川友哉、田中俊太郎、田邊淳也、古田まどか、古志野海人、森田祐介、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. 経カテー
-

テル的大動脈弁留置術後の急性心膜炎に対してステロイドが著効した1例. 第125回日本循環器学会中国地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷

18. 遠藤昭博、小田 強、城田欣也、明石晋太郎、山下 晋、内田利彦、太田哲郎、中澤芳夫、田邊一明. 超高齢者に対する緊急冠動脈インターベンションの有効性～島根ACSレジストリ～. 第125回日本循環器学会中国地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷
19. 田邊淳也. 成人期に手術を施行した右肺動脈大動脈起始症の術後経過. 成人先天性心疾患セミナー. 第125回日本循環器学会中国地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷
20. 田邊淳也、今岡 圭、大矢菜穂子、川原 洋、岡田大司、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 島根大学病院における心不全両立支援の取り組みについて. 第125回日本循環器学会中国地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷
21. 今岡 圭、野口瑛一、福原 翔、中尾珠里、江草典政、大矢菜穂子、田邊淳也、酒井康生. 当院で心臓リハビリテーション実施した患者の退院後の就労状況に関するアンケート調査. 日本心臓リハビリテーション循環器学会第10回中国支部地方会. 2024.11.30-12.1、倉敷
22. Mitsuno R, Kaneko K, Nakamura T, Kojima D, Mizutani Y, Azegami T, Yamaguchi S, Yamada Y, Jinzaki M, Kinouchi K, Yoshino J, Hayashi K. Associations between renal sinus fat volume and cardiometabolic and renin-angiotensin system parameters in patients with primary aldosteronism. *Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT and WDA (KHIAA)*, 2024, Kyoto
23. Kojima D, Qi N, Franczyk MP, Yamaguchi S, Kaneko K, Mitsuno R, Sasaki Y, Finck BN, DeBosch BJ, Hayashi K, Yoshino J. Adipocyte-specific inactivation of NAMPT, a key NAD⁺ biosynthetic enzyme, causes a metabolically-unhealthy lean phenotype during aging. *Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT and WDA*, Kyoto
24. Mitsuno R, Nakayama T, Morimoto K, Uchiyama K, Washida N, Kusahana E, Yoshida E, Tonomura S, Yoshimoto N, Hishikawa A, Hagiwara A, Azegami T, Yoshino J, Monkawa T, Yoshida T, Yamaguchi S, Hayashi K. Early initiation of icodextrin reduces peritoneal dialysis-associated peritonitis risk: a retrospective cohort study. *Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT and WDA (KHIAA)*, 2024, Kyoto
25. Kaneko K, Mitsuno R, Kojima D, Azegami T, Kosugi S, Nakamura T, Hashiguchi A, Yamada Y, Jinzaki M, Yamaguchi S, Itoh H, Yoshino J, Hayashi K. Renal sinus fat is associated with renal resistive index in patients with chronic kidney disease. *Kidney Health In Aging and Aged Societies: JSN/ERA Symposium Collaboration with JSDT and WDA (KHIAA)*, 2024, Kyoto
26. 満野竜ノ介、森本耕吉、金子賢司、児島大輝、中村俊文、木内謙一郎、殿村 駿、吉田英莉子、日鼻 瑛、中山堯振、山田祥岳、陣崎雅弘、内山清貴、鷺田直輝、畔上達彦、山口慎太郎、吉田 理、吉野 純、林 香. 腹膜透析患者における腹部内臓脂肪量および腹部臓器容積の臨床的意義の検討. 第33回東京PD研究会. 2024年、東京
27. 金子賢司、満野竜之介、児島大輝、畔上達彦、山田洋岳、橋口明典、吉野 純、林 香. 慢性腎臓病患者における腎洞脂肪 (RSF) 量と腎血行動態の関連の検証. 第67回日本腎臓学会学術総会. 2024年、横浜

-
28. 満野竜ノ介、金子賢司、中村俊文、児島大輝、水谷洋佑、畔上達彦、山口慎太郎、山田祥岳、陣崎雅弘、木内謙一郎、吉野 純、林 香. 原発性アルドステロン症における腎洞脂肪蓄積の臨床的意義の検証. 第67回日本腎臓学会学術総会. 2024年、横浜
 29. 今本美咲、岡 朋大、糸賀健一、花田真希、吉野 純、神田武志. PDカテーテルトンネル感染に対してカテーテル抜去後にEPSを発症した1例. 第54回日本腎臓学会西部学術大会. 2024年、姫路
 30. 金子賢司、満野竜之介、児島大輝、畔上達彦、山田洋岳、橋口明典、吉野 純、林 香、慢性: 腎臓病患者における腎洞脂肪 (RSF) 量と腎血行動態の関連の検証、第97回日本内分泌学会学術集会. 2024年、横浜
 31. 満野竜ノ介、金子賢司、中村俊文、児島大輝、水谷洋佑、畔上達彦、山口慎太郎、山田祥岳、陣崎雅弘、木内謙一郎、吉野 純、林 香. 原発性アルドステロン症における腎洞脂肪蓄積の臨床的意義の検証. 第97回日本内分泌学会学術総会. 2024年、横浜
 32. 満野竜ノ介、森本耕吉、金子賢司、児島大輝、中村俊文、木内謙一郎、殿村 駿、吉田英莉子、日鼻 瑛、中山克振、山田祥岳、陣崎雅弘、内山清貴、鷺田直輝、畔上達彦、山口慎太郎、吉田 理、吉野 純、林 香. 腹膜透析患者における腹部内臓脂肪量および腹部臓器容積の臨床的意義の検討. 第33回東京PD研究会. 2024年、東京
 33. 満野竜ノ介、金子賢司、中村俊文、児島大輝、水谷洋佑、畔上達彦、山口慎太郎、山田祥岳、陣崎雅弘、木内謙一郎、吉野 純、林 香. 原発性アルドステロン症における腎洞脂肪蓄積の臨床的意義の検証. 第46回日本高血圧学会総会. 2024年、福岡
 34. 畔上達彦、神田武志、石黒真美、小原 拓、吉野 純、林 香. 低出生体重、妊娠高血圧症候群の既往が産後の腎機能に対する影響. 第46回日本高血圧学会総会. 2024年、福岡
 35. 神田武志、吉野 純. 妊娠高血圧症候群からAKIを発症し、エクリズマブにより腎機能が改善した一例. 第46回日本高血圧学会総会. 2024年、福岡
 36. 満野竜ノ介、森本耕吉、金子賢司、中山克振、内山清貴、鷺田直輝、畔上達彦、吉田 理、吉野 純、林 香. 腹膜透析患者における腹部内臓脂肪量および腹部臓器容積の臨床的意義の検討. 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 2024年、福岡
 37. 満野竜ノ介、中山克振、森本耕吉、内山清貴、鷺田直輝、畔上達彦、吉野 純、吉田 理、山口慎太郎、林 香. イコデキストリン透析液の早期使用が腹膜透析関連腹膜炎発症リスクの低下に与える影響に関する検討. 第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 2024年、福岡
 38. 吉野 純、糸賀健一、岡 朋大、花田真希、金崎啓造、神田武志. 糖尿病性腎症により血液透析が導入された高齢者 (87歳) の1例~Long term eGFR plot (LTEP) による症例提示~. 第36回日本老年医学会 中国地方会. 2024年、岡山
 39. 児島大輝、夜久圭介、小杉将太郎、金子賢司、満野竜ノ介、山口慎太郎、佐藤亜希子、豊國伸哉、伊藤裕、中川 崇、林 香、吉野 純. 糖・エネルギー代謝制御における脂肪細胞ミトコンドリアNAD⁺代謝の意義の検証. 第23回日本ミトコンドリア学会年会. 2024年、東京
 40. 児島大輝、夜久圭介、金子賢司、満野竜ノ介、小杉将太郎、山口慎太郎、佐藤亜希子、豊國伸哉、伊藤裕、神田武志、中川 崇、林 香、吉野 純. 糖・エネルギー代謝制御における脂肪細胞ミトコンドリアNAD⁺生物学の重要性. 第97回日本生化学会大会. 2024年、横浜
 41. 吉野 純: フレイル・サルコペニアの新規治療標的としてのNAD生物学の可能性. 第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会、シンポジウム6. 2024年、東京.
-

第30回日本心臓リハビリテーション学会

田邊 一明

2024年7月13日～14日、第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会在神戸で開催されました。2018年12月に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が成立し、各都道府県で循環器病対策推進計画が進められています。島根県でも進めています。健康寿命の延伸と循環器病による年齢調整死亡率の低下のために、心臓リハビリテーションは、予防、啓発、急性期治療と並んで、なくてはならない存在となっています。島根大学病院心リハチームもたくさん出席しておられ、学会期間中の夜には伊藤医院・伊藤新平先生の声掛けにより、島根大学病院、松江市立病院の心リハチームと交流することができました



第72回日本心臓病学会学術集会

田邊 一明

2024年9月27日～29日、第72回日本心臓病学会学術集会在仙台で開催されました。私は京都府立医科大学・的場聖明教授とともにシンポジウム「高齢化社会における循環器診療」を企画、座長をさせていただきました。全6題のうち慣例で座長校から指定演題を1演題ずつ、他の4演題を公募としましたが、20演題以上の応募があり演題採択に苦慮しました。その中でTAVI治療における意思決定支援、ACP外来の取り組み、高齢者における植え込み型心臓電気デバイス感染の経皮的リード抜去術、後期高齢者におけるimpellaの成績(J-PAVDレジストリ)を選ばせていただきました。島

根大学からは田邊淳也先生に「心不全多職種、地域連携」について島根大学病院の取り組みをまとめていただき、京都府立からは低侵襲カテーテル治療の実態として自施設の多くの症例についてまとめていただきました。多くの聴衆で、幅広く勉強できたと思います。どこも頑張っている、先進的な取り組みをしているとあらためて実感しました。現状を勉強するのに学会は最高の機会と再認識しました。

仙台は久しぶりでしたが、仙台に着いたら牛タン定食食べると決めて、行列ができていましたが(外国人が多かったです)、美味しくいただくことができました。





2024年10月4日～6日、第28回日本心不全学会学術集会が大宮で開催されました。島根大学病院からは心不全チームである慢性心不全認定看護師、薬剤師、管理栄養士をはじめ、臨床工学士も演題発表されました。発表準備の段階からそれぞれの深い取り組みを勉強させていただきました。島根大学病院の2024年の心不全再入院率が、前年までと比較して半減していることに貢献していただいています。日本循環器学会は2021年から心不全療養指導士制度を開始しました。心不全におけるチーム医療を展開していく上で、療養指導に従事する医師以外の専門職に資格制度を作り、患者中心のチーム医療のキープレイヤーとなっていただくことを期待しています。島根県内の心不全療養指導士ネッ

トワークも立ち上がっています。

済生会江津総合病院からも佐々木拡志先生率いる心不全チームがたくさん出席しておられ、病院の熱量を感じました。



同門会長挨拶

佐藤内科クリニック
佐藤 秀俊



朝晩に肌寒さを感じるようになってまいりましたが、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。開業医の先生方は生活習慣病同意書作成など診療報酬が下げられた上での労務負担は増えるばかりで毎日お忙しいことと思いますが、どうかご自愛ください。

令和6年度の同門会総会を本年10月12日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて無事開催することが出来ました。昨年に続き会場に皆様にお集まりいただく完全対面形式であり、新入局員の先生方、医局秘書様の多大なる



ご協力を得て、コロナ禍以前よりもさらに多くの先生方にご参加いただき大盛会となりました。至らぬ点が多々あったことと思いますが、どうかご容赦の程よろしくお願いいたします。

第一部では循環器漢方の第一人者である北村順先生にご講演いただき、とても分かりやすく、メモを取る方やスライドをスマートフォンで撮影する方も多く見られ、フロアからの活発な質問などもあり大変有意義な講演会となりました。

第二部は同門会の事務的な報告の後に懇親会でしたが、久しぶりの再会に時間を忘れて語り合い、これも中締め時間を超えそうになるくらい盛り上がりました。次回は令和7年11月1日土曜日に出雲ロイヤルホテルにて同門会総会を行います。また改めて皆様にはご案内いたしますの

で、ご協力、ご参加のほど重ねてお願い申し上げます。

また翌日は田邊杯ゴルフコンペが秋晴れのなか、井上慎一副会長のご準備の下に開催されました。遠方からのご参加もあり、また4組と参加者も多く賑やかで笑顔が絶えない楽しいラウンドでした。そしてベスグロでありながらHCが少なく今まで優勝されなかった井上副会長が初優勝されました。おめでとうございます。来年度も盛大な同門会総会および田邊杯ゴルフコンペが開催できるよう準備して参りますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしくお願い申し上げます。





2024年10月12日（土）出雲ロイヤルホテルにて、内科学第四同門会講演会・総会・懇親会が開催されました。お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。いつも同門の先生方にご支援いただき感謝申し上げます。

講演会では新神戸きたむら内科循環器・漢方クリニックの北村順先生に「循環器医が知っておくべき漢方薬～すべてはここから始まった」の演題でご講演いただきました。北村先生には神戸海星病院時代の2011年10月に本講演会の前身である島根心・血管研究会で循環器診療における漢方の併用について講演していただきました。その内容にとっても感動したのですが、その感動も日々の業務に取り紛れてしばらく失念しておりました。翌年（2012年）に前年の研究会の抄録集を作成するにあたって北村先生より講演をまとめた原稿をいただき、その原稿を読んで北村先生に“漢方の処方集を作ってもらいたい”と閃きました。

ちょうど別件でメールを返さないといけなかった文光堂の担当者に「ところで漢方の本に興味ないです

か？」と添えたことから一気に話が進み、半年後の2013年3月日本循環器学会で文光堂より「循環器医が知っておくべき漢方薬」が出版されました。私は監修の役割を担わせていただきましたが、北村先生にお願いしたのは「漢方薬に読み仮名をつけてください」ということでした。それからの10年間、私たちは循環器診療に漢方が進出してきた歴史の中にいます。北村先生の本に書評をお願いした神戸大学・岩田健太郎教授は「堅牢な循環器診療の隙間を埋めるのが漢方薬」「治療薬はありません、で帰すのでなく、漢方薬を試してみませんか、という診療スタイルは患者満足度を上げる」と後押ししていただきました。



2024年8月10日 健康ハートの日 in 伊藤医院

伊藤医院
伊藤 新平

伊藤医院の伊藤新平です。いつも同門の先生や医局の先生には大変お世話になっています。私は島根大学病院で勤務している間は特に心不全診療をメインに行ってきました。病院勤務時代は心不全で入院される方の診療を行っていましたが、現在はかかりつけ医として地域のメディカルスタッフと連携をとりながら外来での心不全診療を行っています。また島根県（山陰でも）で唯一、心臓リハビリテーションを行う診療所として心疾患の方への運動療法も提供しています。診

療をしていると、ときに患者さんの心不全への理解が十分でない（セルフケアが不十分）と感じることがあります。また今後stageAやBの方への心不全発症予防も重要となってきます。日頃から心不全の啓発活動について何かできないかと思っていました。以前から日本循環器協会が8月10日を「健康ハートの日」と定め、全国各地で啓発イベントが行われているのは知っていたので、当院も独自で聴講&体験型イベントを企画しました。



島根県の後期高齢者における心不全の罹患率は約30%、高齢に伴い罹患率は上昇し85歳以上は2-3人に1人という報告もあります。高齢化に加え、出雲市は心不全の島根県内でも心不全のリスクである高血圧の罹患率が高く、今後『心不全パンデミック』が起きてくると予想されます。心不全パンデミックにより、救急医療の負担増加、病院の病床逼迫、医療介護の相対的供給不足が懸念されます。そしてなにより、度重なる心不全により患者さん自身の生活の質が損なわれてしまいます。

今回のイベントは心不全についての総論、高血圧の治療の重要性、減塩のポイント、運動療法にフォーカスをあてて、知識と体験を混ぜることで、参加された地域の方が少しでも心不全に対する理解を深めていただけたと思っています。イベントでは、1)私、伊藤が心不全の総論、減塩の重要性、減塩のポイントの話、2)理学療法士山本による心疾患の方の運動療法につ

いての話、3)聴診器(Nexstetho)を参加者自身の胸部に当てていただき、Bluetoothで接続されているスピーカーから聞こえる心音を自身で聴いてもらうこと、4)ソルセイブという濾紙を使った味覚(塩味)の域値の自覚、5)無限レシピ(島大発ベンチャーの商品)の試食を行いました。また、参加者にはお土産に低糖質+無塩クッキーを用意しました(大田にあるsa.ki.7さんに特別に作成してもらいました)。当院スタッフ以外にもボランティアで島根大学病院理学療法士(福原さん)、出雲市民病院作業療法士、済生会江津病院の栄養士さんにサポートしてもらいました。

心不全の発症や重症化を防ぐための体制作りが急がれている状況ですので、その一つとして引き続き地域の方への心不全に対する啓発活動を同門の先生や医局の先生と行っていきたいとおもっています。今後ご指導、ご鞭撻の程よろしくお祈いします。



第30回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告



同門会ゴルフ幹事 井上 慎一

今回も新入局の田中俊太郎先生、長谷川友哉先生、花森航希先生が前回に続き集ってくれました。仕事が忙しい中での御参加、心から感謝しています。貴重な休みの日をゴルフに費やす意味が今は理解し難いかもしれませんが、是非これからもゴルフを続けてみて下さい。ドラコンは森田祐介先生、山口直人先生、ニアピンは花森航希先生、古志野海人先生、後藤泰利先生が獲得されました。梅野哲弘先生、北村順先生には今回も遠方から御参加いただき本当にありがとうございました。

お忙しいなか御参加いただいた先生には重ねて御礼申し上げます。次回の開催は令和7年5月11日(日)の予定です。初めて方も大歓迎です。多くの先生の御参加を心からお待ちしております。

令和6年10月13日、第30回田邊杯をいずも大社カントリークラブで開催いたしました。

村上林兒先生が9月28日、御逝去されました。先生は新設大学であった島根医科大学において長年に渡り私たちを導いて下さいました。また、ゴルフと大社カントリークラブを心から愛しておられ、お忙しいなか医局コンペにも御参加を頂いておりました。全員で哀悼の意を表し、黙祷を捧げ追悼ラウンドに臨みました。

今回の田邊杯には13名の先生に御参加いただきました。前回は同門会長である佐藤秀俊先生が見事初優勝され、先生からこのコンペに立派な優勝カップを寄贈いただきました。今回は皆様のお陰で小生が初優勝となりました。荣誉ある「田邊杯」の優勝カップに名を刻む事ができ、本当に誇らしい気持ちです。ありがとうございました。



在りし日の村上林兒先生
(2012年5月 医局コンペにて)

順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	井上 慎一	46	45	91	15.6	75.4
準優勝	森田 祐介	48	50	98	21.6	76.4
3位	北村 順	48	55	103	26.4	76.6
4位	梅野 哲弘	63	57	120	43.2	76.8
5位	後藤 泰利	45	43	88	9.6	78.4
6位	花森 航希	62	65	127	48	79
7位	佐藤 寛大	51	56	107	27.6	79.4
8位	田邊 一明	60	59	119	38.4	80.6
9位	山口 直人	60	57	117	36	81
10位	長谷川友哉	70	67	137	55	82
11位	佐藤 秀俊	58	59	117	34.8	82.2
12位	古志野海人	62	58	120	36	84
13位	田中俊太郎	66	79	145	55	90



道

編集後記

「人生100年時代」という言葉をよくみかけます。2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されたという報告もあったようです。2024年10月にnature aging に発表された論文では、日本を含む世界の長寿国8か国とアメリカ、香港で香港以外の国の平均寿命は伸び悩んでおり、今世紀中に人生100年時代は来ないということでした。ちなみに世界の中で長寿である日本人女性の70%が100歳を超えるには、死亡数のピークが110歳（現在は90歳）で、最高齢は140歳にならないといけないそうです。現実では医療の進歩で人間の平均寿命はすでに十分に延びており、今の段階ではいかに健康寿命を延ばすかが重要となります。人生100年時代を迎えるには老化のスピードを遅くする研究が待たれるところです。（田邊）

島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html